

マテリアリティの特定

マテリアリティ特定にあたり

近年様々なステークホルダーからの財務・非財務の情報開示に対する要望が高まっております。ジーテクトの事業活動が社会に及ぼす影響を把握し、影響の可能性や影響そのものを管理しながら事業活動を行うべきだと考えております。

ジーテクトグループの事業が持つ特性や展開地域などを考慮し、ステークホルダーの皆様の意見を伺いながら2016年度時点での重要な側面を特定しました。特定したマテリアリティに対してはマネジメント方法を整理・強化し、次の新中期計画の策定プロセスに統合していく事を目指します。

STEP

1

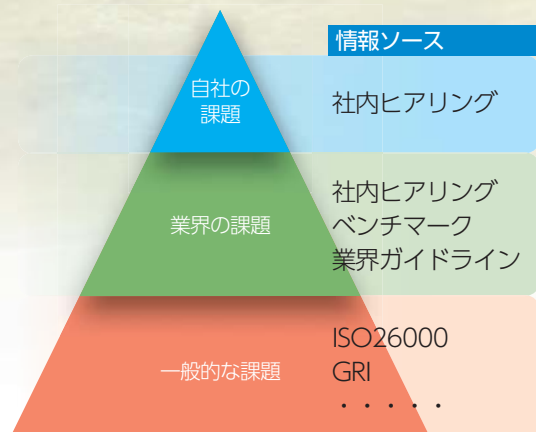
社会課題の洗い出し

CSR課題を幅広く把握し、ステークホルダー視点・社会的役割を基に課題群を整理

ジーテクトがすでに取り組みを行っている課題を基本に、一般的な課題をISO26000、GRI・国連グローバルコンパクトなど、また業界の課題を社内ヒアリング・他社ベンチマーク・業界ガイドライン、自社の課題をステークホルダーからの情報収集などを活用し、それぞれから出てくる社会課題と照会いたしました。

その結果、すでに対応している課題に加え、これらの外部評価にあげられているものを追加し、社会課題リストを作成いたしました。

■ マテリアリティ特定にあたり



STEP

2

自社事業戦略からの課題

経営理念や事業戦略などから、CSRに関わる要素の抜き出し

ジーテクトグループの経営理念・経営ビジョン・経営方針などからCSR要素を抜き出し、社会課題リストへ追加いたしました。

経営理念

社是	行動方針
人間性尊重	愛情と相互信頼をモットーに自己啓発に努めよう
技術革新	先進技術を追求め良質廉価な製品を提供しよう
堅実経営	自主性をもち英知と機敏さで社会に貢献しよう

経営ビジョン

先進技術と良質廉価技術の融合で
低炭素社会に貢献し、
世界中のお客様に満足される企業



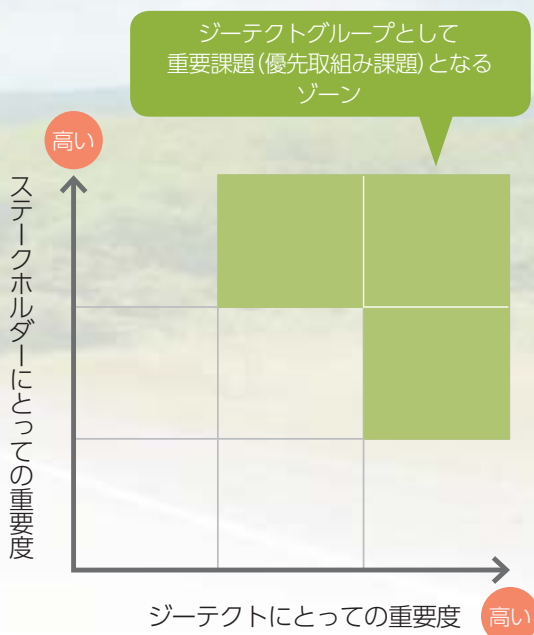
CSRマテリアリティ特定のプロセス



STEP 3 重要度の検討

ステークホルダーからの期待、
自社の経営戦略などから抽出した
課題の重要度検討

ジーテクトグループにおける重要度とステークホルダーにとっての重要度の2軸とする平面にSTEP2で作成した社会課題リストにある課題群をマッピングし、両方の視点で重要度が高いと言える課題を重要課題と特定する為の評価を行いました。



STEP 4 マテリアリティ 妥当性の確認

決定したマテリアリティについての
最終確認

ジーテクトグループのCSR課題に関するマテリアリティ特定プロセスと抽出課題の社外有識者による評価と経営層による議論を行いました。

STEP 5 マテリアリティの特定

特定したマテリアリティ

- コーポレートガバナンスの強化
- 環境配慮製品・技術の開発
- 人材育成
- 環境マネジメント

環境に配慮した製品づくり

環境に配慮した製品づくり

我々を取り巻く自動車産業界は、未来のモビリティシステムを実現する為の自動運転車や交通ネットワーク情報システムの開発、EV車(電気自動車)やFCV車(燃料電池車)に代表されるパワートレインの電動化など、環境適応車の開発が急がれております。

その中で、ジーテクトは最軽量・高性能・低コストボディの提供により、環境にやさしい製品を競争力のある価格で幅広く活用頂けるように、日々努力をしております。

構造面からのアプローチ (車1台解析技術)

軽量高剛性ボディ提案

自動車ボディに求められるものは、ボディそのものの軽量化によるCO₂削減はもとより、環境にやさしいEV車やFCV車は重い電池を搭載する為、さらなる軽量化が求められております。

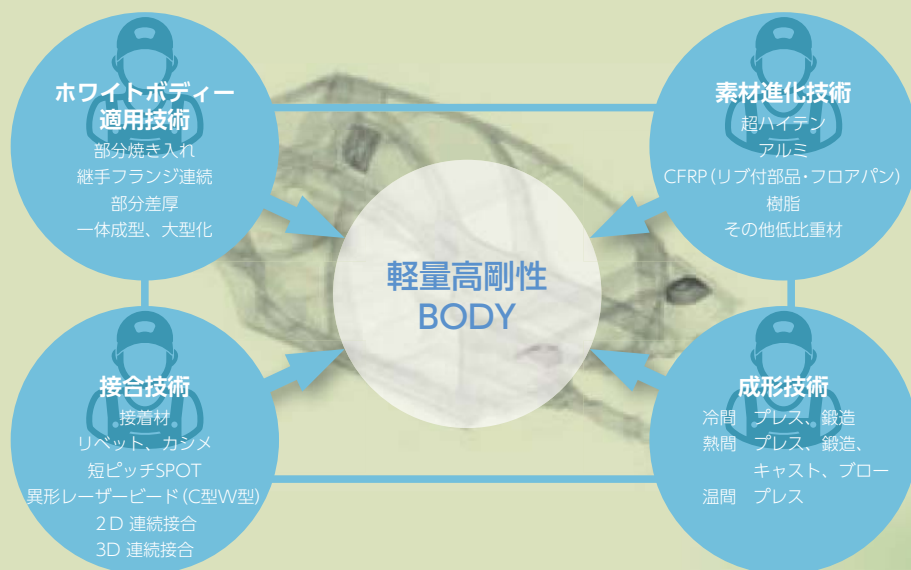
ジーテクトでは、要素技術の手の内化や競合他社の製品調査より、軽量ボディノウハウを構築し、フルカーシミュレーションによる性能保証の裏付けがある最適ボディを提案しております。

■ 最軽量・高性能・低コストボディ 提案フロー



要素技術の手の内化

ジーテクトは軽量高剛性ボディの実現の為に、「ホワイトボディ適用技術」・「素材進化技術」・「接合技術」・「成形技術」の各分野に取り組みホワイトボディの要素技術の手の内化を進めております。



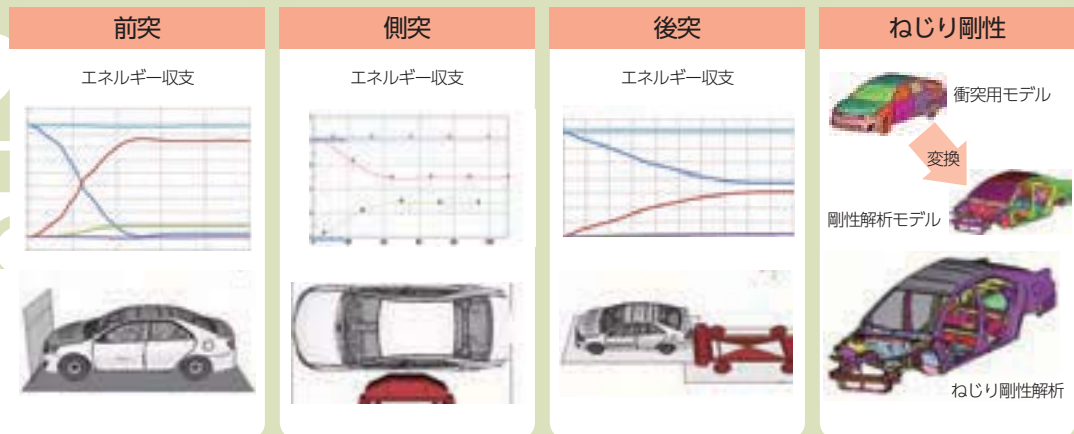
フルカーシミュレーションによる性能保証

◀ 競合他社の製品調査

最新注目車種を徹底調査し、競合他社との比較・業界や新製品動向の見極を行い、ジエクトの技術力向上と軽量ボディーノウハウの構築をはかっております。

◀ フルカーシミュレーションによる性能保証

要素技術の手の内化や競合他社の製品調査により構築したノウハウを反映したモデルで、衝突全方位と剛性の解析結果を基に性能評価・最適提案を行っております。



金型設備・製品材料の省資源化

◀ 金型設備・製品材料の省資源化

部品の多数個取りや工程削減による金型材料の削減・加工方法の変更による歩留り改善(スクラップ削減)による省資源化で環境にやさしい生産現場の実現に向けた継続的な活動を行っております。

金型設備の材料削減



多数個取り事例

多数個取りによる
金型材料削減

製品材料の材料削減



歩留り改善事例

加工方法を変更し
材料15%削減